高校阿倍野新聞

発行所
〒大阪市阿倍野区阪南町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　橋村宏一

執行部成立す

注目される諸公約

制服問題解決か

去る六月十七日、昭和五十一年度前期自治会役員選挙が行なわれ、上野会長以下、四役が信任された。また、二十四日、補充選挙が行なわれ、一年学年代表男女、二年学年代表男子が、信任された。

今回の自治会役員選挙は七名の立候補者があり、全員信任された。なお、各ポストの役員は次の通りである。

会長　上野　浩司
副会長　峯　正一郎
書記　三浦　雅博
会計　小路　晋一
一学代男　松下　尚史
一学代女　陣内　冴子
二学代男　佐谷礼次郎

依然として、毎回補充選挙に頼らなければならない状態が続いている。また、執行部成立の七人の基準に達しているとはいえ、その殆どが自分の強い意志で立候補しなかったというのも問題であろう。

しかしながら、制服検討委員会を作るなど制服問題に対する執行委員の意気込みは、期待ができそうである。これからの執行部の活動に期待したい。

役員にインタビュー

会長―会・副会長―副書記―書・二学男―学

司　まず立候補の主旨は。

会　やり残したことがあったので、もう一度やってやろうという気になったからです。

司　上野さんは執行部は三度目ですね。

会　ええ（笑）もう執行部のことでわからない事は何もなくなりましたよ。

副　自分の入っている愛好会を、クラブにしたかったからです。

書　自転車通学についての問題点を、自治会の根本的な対策として、力を入れていきたかったからです。

学　自治会員全員が阿倍校生としての認識と自覚を持って、あらゆる諸問題に対する気持ちを、さらに盛り上げていき、ファミリー的な奮囲気で、自治会を進めていきたかったからです。

司　公約について

会　制服問題です。この問題は、制服検討委員会をつくり、よく検討していき、終止符を打ちたいと思っています。

司　不信任が多かった事についてどう思いますか。

会　不信任を出した人は、僕の演説に対して何かを感じたわけです。例えば「こういう人間に会長をやらせては、危ないのではないだろうか」とか。

司　不信任が多かった事ですから、もしこういう気持ちが自治会員の間に高まったのだとしたなら自治会に対する関心も出てきそうなものではないでしょうか。

司　これからの自治会について。

会　打倒三無主義！そして体育祭、文化祭、ことに体育祭については、教師からの干渉が多いので、自治会で活動することを主張したいと思っています。

司　どうもありがとうございました。これからも頑張っていて下さい。

インタビューは以上の通りである。それぞれ立候補の主旨や、自治会に対する考え方に違いこそあれ、よりよい阿倍高を作っていこうという点では、合致しているようだ。

☆　☆

ひとり言

きらわれてまんなあ……

自治会室

部説

混雑する食堂

積極的な打開策を

今に始まったことではないが、昼休みの食堂の混雑ぶりはひどいものである。買う窓口に人々はずらっとならび、人でいっぱいのテーブルのまわりを熱い器をもった人が走りまわる。

この混雑の主な原因として、割込むもの、弁当を食堂で食べるもの、食べ終っても座ったまま話をしているもの、食堂が狭いこと等があげられる。それではこの混雑をふせぐ方法はないだろうか。

まず初めに、割込みをする人がいるということだが、現在割込みという行為があまりにもあたりまえに行なわれすぎて、悪いこという意識が失なわれているのではないだろうか。割込みを防ぐためには、本人の悪いという自覚と、他の人の悪いことは悪いといいきる態度、これが必要だと思われる。しかし、現在の我々にこれをなせる規則はない。そこで望むのは少々無理かもしれない。そこで出てくるのが風紀部会だ。風紀委員が昼休みに食堂で見はりをし、割込みをする人がいれば注意する。自覚がだめなら、外の力によるしかあるまい。

次に弁当を食堂で食べることや、食べ終った後も座ったまま話をしていることだが、これを禁止する規則はない。そこでなぜ食堂で弁当を食べるのかと聞いてみれば、「一人だけで食堂で食べさせるのはかわいそうだ。みんなで楽しく食べたい」等の答えが返ってきた。しかし、これは単なるエゴイズムだ。食堂で弁当を食べる人や話をしている人は、そのまわりで熱い器を持ってウロウロしている人がいるのを知っているのだろうか。だれでもウロウロした経験のある。そこで一度はあるだろう。そこのところをよく考えて我々は行動すべきである。

最後に、食堂が狭いということだが、これは仕方がないことだ。しかしあの狭い食堂はまだ最大限に利用されていないのではないだろうか。例えば机の幅を狭くして台数をふやすとか、空びんの置かれている隅や、現在自動販売機のおいてある場所などに立ち食い用の棚を作る等、もう少し能率的に使う工夫をする余地はあるから、ということは考えてきた。混雑するからいうこと

各クラブ意気盛ん

―クラブ報告―

運動・文化・愛好会など各クラブでは、試合への参加や、発表物を発行したり、また新入部員も入部してたいへん忙しい時期に入っている。そこで新聞部ではこのような中、各クラブの活動内容や状態を調べてみた。

運動部

▼サッカー部▲
強くなってやる!!とファイト満々でイレブンは闘志を燃やしている。しかし、ボールの不足、グランドが狭い、予算が少ないなどの問題が大きな壁となっている。練習は民主的で生徒自身の自主的な活動を中心にがんばっている。

▼柔道部▲
特に礼儀を重んじるこのクラブでは、新入部員に対するしつけをきびしくしている。現在の目標は、個人戦を通じて部員全員が二段になることだそうだ。また予算内で柔道着をそろえたいと思っているのだが、なかなか実現しそうにもないらしい。

▼陸上部▲
近畿大会でよい成績をおさめたが、府の大会では、少し力が及ばなかった。しかし、これからも先輩方の伝統を受け継ぎ、よりいっそうすばらしいクラブにするためにがんばっている。一年生には練習中はきびしくする反面、明るいクラブ作りにも力を入れているとのことだった。

▼野球部▲
野球部では、試合のひとつひとつに力を入れ、ただひたすらに甲子園を目指して一生懸命頑張っている。
予算については、やはり足らないそうだ。
また、「後援会とは別に支給して欲しい」と学校側に要求していた。例年十万円以上ももらってはいるものの、やはり物価の波には勝てないらしい。

▼卓球部▲
去る五月二十二日、二十三日の二日間に渡って行なわれたインターハイでは、部員一同頑張ったが、あまり成績はふるわなかった。
しかし、有望な選手がそろっているので、これからの活躍が期待できそうである。
今後の目標としては、『一日一日の練習を充実させる』ということで、毎月の練習に大いに励んでいるとのことであった。

▼軟式テニス部▲
去る五月九日の男子ブロック予選の個人戦で、全員2回戦まで進出した。現在は、男女共に七、八月にある中央大会を、目指して、チームワークと練習量で、大会での成果を上げようと頑張っている。
クラブの問題を尋ねたところ、ボール不足や部室が欲しいとのことだった。

▼男子バスケット部▲
先日行なわれた全国インターハイ大阪予戦では、一回戦島本高校に快勝、二回戦は、惜しくも商大付属高校に敗れた。しかしこれをきっかけに、一層クラブを充実させようと、練習に励んでいる。すでに六連勝という記録も出ており、次回には期待できそうだ。
また、今年の一年生は、まとまりがあり、将来が楽しみだということである。
月、水、金、土、体育館火、木は外で活動している

▼剣道部▲
六月六日にインターハイ予戦があり、強豪清風に惜しくも破れた。今後、もっと練習に励み、チームワークを固めていくとの事だ。
なお、人数不足の為、男女部員及び女子マネージャーを募集中。

▼女子バスケット部▲
月、水、金、土曜日は、体育館で、火曜日は、運動場で、猛練習に励んでおり、『何でもさせて体で覚えさせる』という初心者中心の基礎的な方針で一年を指導しているそうだ。
また、今年は、インターハイや府大会の四、五回戦進出を目標にしており、今後の活躍が期待できるクラブの一つである。

▼ラグビー部▲
三年生が引退して一ヵ月余り、近頃、クラブ内では少しでも阿倍高の名をあげようという気迫が高まり、ますます充実した練習を行なっている。このような中で一年生は、基礎体力作りを中心に行ない、実力を養って一歩でも先輩達に近づこうと努力していた。
しかし、予算の方が全く足らないので、困っているそうだ。

対住吉戦

文化部

▼放送部▲
最近、昼休みの番組の充実に力を入れており、これから先、音楽ばかりでなく学校問題なども取り扱いたいとの事である。
また、現在放送部では、機械の老朽化という問題があり、早く新しい機械と取り換えてほしいとの事だ。
なお、ただ今アナウンス科、技術科の部員を募集中

▼写真部▲
現在、一年生に写真の技術指導をしている。今年は人の心に訴えて余韻を残すような写真を撮り、展覧会を多く開きたいということだ。
毎日のように、階段の下の暗室には、酢酸の臭いが立ちこめ、裸電球がこうこうと燈っており、その中で和気合い合いとした雰囲気が前を通る我々にさえ感じられる。

▼映画研究部▲
現在、機関紙発行に力を入れているかたわら、文化祭で八ミリ映画を上映しようなどの私たちにとって、たいへん楽しみな計画を立てているそうだ。
ただ、部員が少なく、部室もなく、教室での活動は思うようにいかないので、「映画に少しでも興味のある人は、一度クラブに来てほしい」とのことだった。

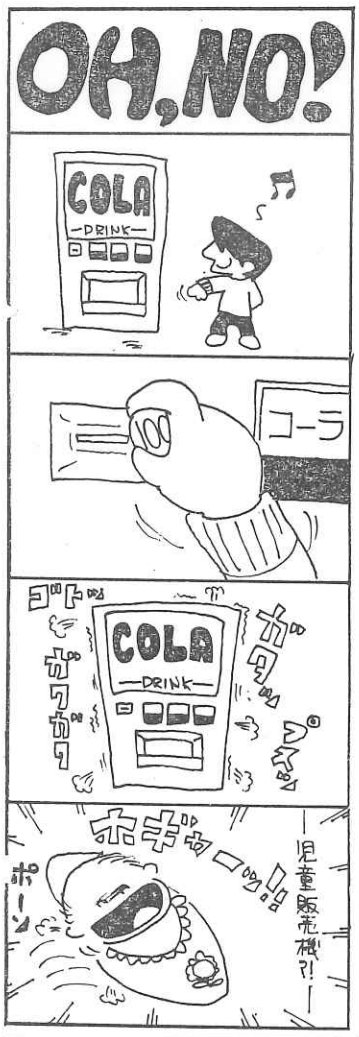
▼軽音フォーク班▲
去る六月二十六日に旧講堂でコンサートが行なわれた。一年生も参加しており力強い演奏を聞かせてくれた。今年の一年生は、個性の豊かな生徒が多く、文化祭に行なわれる予定のコンサートが楽しみである。

▼琴部▲
今、琴部では、合奏を中心とした新入部員の基礎づくりをやっている。
今年は、明るく、親しみやすい一年生と共に、他校との交流を深めていきたいということだ。
しかし、予算の面では、あの美しい音色が流れるこの部でも、他のクラブと同様に、少ないという苦情が出ている。

愛好会

▼アマチュア無線愛好会▲
『愛好会からクラブへ』を目標に、現在は文化祭の準備のために、北舎屋上にアンテナの製作をしているそれに、コンピューターのハードウェアー、ソフトウェアーのデジタル回路の研究などもしている。
一年生には無線の免許収得のために講習会を開いており、活発に活動している
部員が男子ばかりなので女子部員も募集中とのことである。

▼空手道愛好会▲
この三ヵ月ほどで一年生の部員が増えてきていて、一年生には基本から無理なく安全に指導しているようである。また、新入部員は素質があって前途有望とのこと。
今年は『黒帯を十人にする』『愛好会からクラブにすること』を目標に連日のように練習に励んでいる。



修学旅行
生徒の自覚を

我々にとって修学旅行とはどういうものだろうか。
ただ毎年のように行なわれていることだから何となく参加しているという人も少なくないだろう。しかし本来は団体生活の規律を身につける、学年全体として一つのことを成功させることが目的であろう。
考えてみると、近年、修学旅行は「ただの旅行」になりつつある。なぜかというと、我々生徒が修学旅行によって得るものがなくなってしまったからだ。その上、多額の費用をかけながら、成功しないとなれば全く無駄な旅行になってしまう。
もし、ここで、修学旅行は無駄だから廃止すると言われても、今の我々にはどうすることもできないのではないだろうか。
とにかく、このままではいけないのである。
それではどうすれば、有意義な修学旅行にできるだろうか。
それにはまず、我々生徒の修学旅行である、という自覚をもたなければならない。例えば、文化祭のように一つのことをクラス全体でなし遂げたとする。その時、成功させようとして努力することが、ものに対する認識であり、自覚によるものである。また、その時感じた悦びが、有意義なことであった証拠であろう。修学旅行もこれと同じでただ学校全体でなく、学年というわくに変わっただけなのだ。
幸い、本校には、修学旅行委員というものが設けられている。残念ながら去年の修学旅行委員は、しおりと歌集づくりが殆どの仕事であった。そのしおり作りも途中からの参加で先生方の言われたことを紙に移したにすぎなかったそうである。
そこで、修学旅行委員は従来のように歌集やしおり作りもやり、また、修学旅行についての問題点などまで幅広く携わっていくべきである。これも例であるが阪南、住吉高校では、生徒が殆どの計画に取り組み、より楽しい、おもしろい、そして意義のある修学旅行にするよう努力しているそうである。
このように積極的に取り組んでいくには、もちろん委員の気迫も必要だが、それ以上にH・R生徒の気迫が必要だ。いつもなら、静かで意見のでない話し合いでも、修学旅行についての疑問点、問題点を話し合うとなれば、我々生徒も知らぬ顔はできないはずだ。
従来のように歌集づくりを中心に進めて行くような修学旅行委員会であれば生徒がついてこないのは当然で修学旅行が有意義なものにならないのは当り前である。
ところで、現在二年生の間で修学旅行委員が作られたが、前にのべたようにいろいろなことをやっていくには少し時間が足りないのではないだろうか。やはり多種の問題に携わり、解決していくには、一年生のときから、ゆっくりと時間をかけて、無理なくやっていくのがよいのではないだろうか。また、修学旅行委員会の設置も、先生に要望されてからするのではなく、もっと自主的に我々生徒から設置要求し、もっと修学旅行について考えていくべきではないだろうか。

× × × ×

TAKO訪問

活発な自治会
天王寺商業

国鉄環状線桃谷駅下車、我々は大阪市立天王寺商業高等学校へと向かった。
まず我々が、最初に関心を持って尋ねたのは教科のことで、普通科高校と違い、一般教科の他に簿記、会計、商業一般、経済などの科目があり、また、物理、生物日本史、世界史は、選択となっているそうだ。
クラブ数は、文化クラブが二十五、運動クラブが十五ある。我校とは反対で文化クラブの方が活発で、事務管理研究部、簿記部、全国優勝した珠算部など我校にみられない珍しいクラブがある。
次に、自治会活動は、羨しいほど活発である。
というのは、会議の様子にも活気があり、盛んにも活気があり、盛んに意見を交換しており、各行事も一般生徒が一緒になって、積極的に打ち込んでいるそうだ。また各教室ごとに『声のくすかご』という意見箱も設けてある。
また執行部の役員は、会長だけを選挙で決め、他の役員は会長が指名するしくみとなっている。だから、補助選挙が行なわれることはめったにないそうだ
それに比べて我校では選挙方法こそ違ってはいるが、自分から進んで立候補する生徒は定員数に満たないほど少ない状態である。
また制服着用については、先生の指導がきびしくないせいか、生徒はあまり反感を持っていないようだ。その反面、校章をつけてこない生徒が増えつつあり、今後の課題となっているそうだ。我校の制服着用の指導はいろいろと規定が多いがそれにもかかわらず、守っていない生徒は少なくない。
それから、我校で問題になっている自転車通学だが、ここでは原則として禁止となっているが、正当な理由があれば、許可されており、自転車置き場も設けられている。
食堂に関しても、食堂管理委員会というものが存在している。これは、値上げの時や、味がおちた時などに活動する機関だそうだ。といっても名前だけで、あまり活動していないらしいが、我校にも、食堂の昼の混雑を少しでも防ぐために、このような機関を設けてはどうだろうか。
それから、校則は、生徒の自主制を尊重して少なく、寛大である。先生は、生徒に対して放任主義という感じである。よって生徒は、自らの行動を自らの手で決め、行なうという自主的精神を大いに発揮して、明るく活発にふるまっている。それとは対称的に、我校の生徒はおとなしく、消極的なので、どうしても先生の発言力が強くなる。このような現象がおこるのは、やはり、生徒がしっかりしているか、していないかにかかっているのではないだろうか。なにかしら、自治の大切さを思い知らされた感じがした。

中庭より

編輯後記

今回の新聞は、一年生をまじえての最初の新聞とあって、作成の手順やその他いろいろ教えることも多くありました。このため我々二年生としては昨年までと勝手が違い、かなり忙しかったように思います。また同時に昨年の今頃、今の三年生の先輩方も苦労したんだなあと思うと、思わず苦笑してしまいました。
しかし、一年生も頑張ってついて来てくれたおかげで、どうにか無事、新聞を発行することができました
読んで見てどうでしたか特に一年生は、入学式の時発行した新聞と比較してみて感じた点をどしどし身近な新聞部部員に言って下さい。